

一般社団法人 日本臨床ヒプノセラピスト協会 (JBCH) 創設から 9 年を迎える 2022 年 5 月、JBCH 会報誌『News Hypno』が創刊となりました。本誌を通して、会員の皆さまにとってより良い環境と役立つ情報を提供していけるよう努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

contents

**【第3号特集】スペシャル対談 光田秀 先生 × 村井啓一** 2

村井啓一代表理事と、今年設立 30 周年を迎えられる NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンターの光田秀先生をゲストに迎え、お二人の対談をお願いし、その内容を会員の皆さんにもお届けさせていただきます。

**【ケーススタディのすすめ】珊瑚珠色 先生** 11

News Hypno では、臨床経験豊富なヒプノセラピストの事例をレポートすることにより、皆さまの臨床ヒプノセラピーの現場にお役立ていただきたいと「ケーススタディ」のコーナーを設けることとなりました。記念すべき第一回目は、JBCH 理事の一人である珊瑚珠色先生にご担当いただきました。

**【JBCH 勉強会レポート】「エリクソン催眠の本質」に参加して～エリクソンは「愛の人」～** 20

JBCH では、偶数月に勉強会が開催されています(対面も ZOOM も参加可)。毎回、ヒプノセラピーに関するさまざまな内容(テーマ)が扱われており、脳科学の点からもヒプノ関連の最新の情報を得る場ともなります。

**連載【ヒプノセラピー困ったときの相談室】** 22

「前世へ降りたのに、次のシーンへ進んだら今世の幼少期にたどりついた! どうしよう!?!」

**連載【オススメ書籍・メディア】** 24

最近話題の ChatGPT を使ってみました

**新企画【前世療法・実体験漫画コーナー】** 27

JBCH 会員ヒプノセラピストが、実際にセッションを行ったその前世療法を、連載漫画にご紹介していきます。



【第3号特集】スペシャル対談

〔ゲスト〕日本エドガー・ケイシーセンター会長 みつだ しげる せんせい 光田 秀 先生〔聞き手〕JBCH 代表理事 むらい けいいち 村井 啓一

今回『News Hypno』第3号の特集として、村井啓一代表理事と、今年設立30周年を迎えられるNPO法人日本エドガー・ケイシーセンターの光田秀先生をゲストに迎え、お二人の対談をお願いし、その内容を会員の皆さんにもお届けさせていただきます。事前に編集委員から光田先生への質問もいくつか村井代表にお渡しして、お聞きさせていただきました。

お二人は10年来の友人ということで、この対談が実現致しました。エドガー・ケイシーは「催眠」状態でクライアントに病気治療の処方を与えるフィジカルリーディングと、前世を教えるライフリーディングを24才から67才に亡くなるまで長きにわたっておこなった有名な預言者です。そのエドガー・ケイシー研究の日本の第一人者、光田先生にお話を伺いました。

(編集担当：奥田真紀、辻口真紀)



村井代表：光田先生、本当にお久しぶりです。よろしくお祈いします。まず最初に、光田先生とエドガー・ケイシーとの出会いを教えてください。

光田先生：私は元々、20歳までガチガチの唯物論者でした。そうなるには、いくつか理由がありますが、一番大きいのは、父親が筋金入りの唯物論者だったということです。ですから私は唯物論の世界で育ったんです。

しかし、唯物論で生きると、当然ながら、人生に必ず絶望しますよね。だって人間は死んだら「無」ですから。死とともに一切の痕跡を残さず消滅してしまうとなれば、人生の意義は絶対に見つけれないですよ。

私はもう「無」なので。私にとって私の人生は意義がないという結論に行かざるを得ない。高校生の時に、自分の人生の意義を一生懸命に考えて、考えれば考えるほど「僕の人生には意義がない」「なんでこんなところに私が存在しているんだ」「このタンパク質を早く止めてしまえ」という結論になり、脳みそを早く止める方法を色々考えました。

高校の時に、遺書を100通くらい書きました。いつか発作的に自殺するだろうと思ひ、それを隠し持っていて、死ぬ機会を待っていたというか……それはそれは毎日しんどいです。朝起きる度に「なんで

生きてるんだ？何で目が覚めたんだ」と落胆するわけです。私は何回か自殺しようと思ひ、カッターを手首に当てたり、首に当てたりしました。

その都度、母親のことが頭をかすめて、どうしてもできなくてね。「しょうがない、母親が死んでから自殺しよう」と思ひ、一応、大学には行きました。でも、大学に行っても勉強する気力がないし、とにかく生きる意味を哲学的に突き詰めたいと思ひ、ひたすら哲学書を読みまくりました。でも、何を讀んでも、自分の人生に意義がないということが明白で、苦しみました。

＜光田秀 先生 主なプロフィール＞

NPO法人日本エドガー・ケイシーセンター会長

広島県生まれ。京都大学工学部卒業。

20歳の頃、エドガー・ケイシーの『転生の秘密』（たま出版）を讀み靈的人生觀に目覚める。

同大学院修了後、政府研究機関にて4年間勤務。以後、エドガー・ケイシーを中心に、靈的哲理の研究・翻訳・執筆に専心。

主な著訳書に『眠れる預言者エドガー・ケイシー』『キリストの秘密』『神の探求』『エドガー・ケイシーの超リーディング』『エドガー・ケイシー療法のすべて』などがある。

神奈川県歯科大学大学院統合医療講座 講師

【第3号特集】



エドガー・ケイシー
Edgar Cayce
(1877年~1945年)

20歳の時、このままいったら私の頭は壊れると思いました。これ以上は耐えられないと思い、20歳の誕生日を迎えたのをきっかけに、自殺を決行しようと思いました。でも、「実行する前に読み落としの哲学書があったら、それこそ取り返しがつかない」と思って、京都の駿々堂という本屋さんに哲学の本を買いに行きました。すると、そこにケイシーの本が「間違っ」入っていたんですよ！

私は、オカルトなどは絶対読まない人間だったんです。でも、本来オカルトに分類されるはずのケイシーの本が、なぜか哲学書の棚に混ざっていて、「エドガー・ケイシーなんて哲学者、聞いたことないなあ」と思いながら、ケイシーの『転生の秘密』という本を手に取りました。パラパラと読み始めたら、驚愕してしまいました。

それを買って下宿に帰って、読むたびに雄叫びでした。「何これっ？なんだこれは？」って感じです。今まで人間は死んだらそれきりだと信じていたけど、エドガー・ケイシーは具体的な現象として「人間の本质は魂である」ということを示しているじゃないかと。ケイシーがやったことは、どうやっても唯物論の枠内では説明できないと。

人間の本质は魂なんだ！永遠不滅の高貴な魂だ！と。明け方に読み終えた私は、その日から「歓喜の住人」になったのです。それ以前の私は、「絶望の住人」でした。暗い顔をして、いつ死のう、どうやって死のうばかり考えていました。でも、その日を境に私は、「歓喜の住人」になってしまった。

同時に私の中で決意が生まれました。それは、私が苦しんでいる時に、なぜ学校の先生はエドガー・ケイシーを教えてくれなかったのかと。学校の先生からは、デカルト、カント、ショーペン・ハウエルを読むように勧められたけれど、私は救われません

でした。余計に私は苦しくなった。しかし、ついにケイシーによって救われた。同じように苦しんでいる同胞が全国にいるに違いない。彼らにエドガー・ケイシーを伝えていこうと思いました。20歳のその日を境に、私は、エドガー・ケイシーを伝えて歩くことを自分の生涯の目標に定めたんですよ。私は、そこから一度たりとも逸れたことはありません。

私は、大学を卒業して、本当は『たま出版』に行きたかったけれど入れなかったから、2年間大学院に行きました。もう1回『たま出版』にチャレンジしたかったけれど、大学の先生の薦めに従って、東海村の原子力の研究所に勤めました。4年間勤めましたが、私は原子力の研究をするよりもケイシーを伝える方が私の人生だと思い、28歳で研究所を辞め、それからは、ひたすらエドガー・ケイシーを翻訳したり、自分で書いたり、依頼があれば講演をするという生活に入りました。

そうしていたら、今から30年前にアメリカのエドガー・ケイシー財団から日本に拠点を作ったらどうかと提案されて、『日本エドガー・ケイシーセンター』という団体を作りました。

最初の10年間は、任意団体だったのですが、20年前にNPO法人にしました。アメリカの財団から、我々は日本で唯一の窓口として認可された正式な団体として活動しております。

村井代表：ケイシー一筋ですね。しかし、やはり熱意があつてこそ道が作られていくのだなという気がします。何よりもケイシーを信じることで、ケイシーの書いた内容、ケイシーの存在を認め、全ての人に伝えるということ自分の仕事にしていらっしゃる。

光田先生：エドガー・ケイシーの情報というのは、信仰の世界で話したことと、科学的な話と全く矛盾なく、見事に美しく調和するんですよ。ケイシー療法がインチキだったら効果が出るはずがないですが、きちんと効果が出ますから。

今回のコロナだって、いろんなところでケイシー療法が活用されて私も嬉しいです。

村井代表：エドガー・ケイシーが預言をした時に催

眠状態で行ったということが、その当時の催眠療法の世界に大きな影響を与えたと思います。ヒプノセラピーでも、クライアントさんが、普段は理性の狭い脳領域で考えて行動をとっている。しかし、催眠に入ることによって、ご自身のより深いところ、普段使わない脳領域まで使った状態になってくれると。場合によっては宇宙、あるいは地球のどこかと繋がって、そこから何か情報を得ているということがあるのかもしれない。

そこから何かに気付かれるし、自分自身の中で答えを見つけ出される。催眠療法をしていると、4~5年にお1人ぐらい、セッション中に急に声が変わって、「我は宇宙存在だ」とか「宇宙の真理をお前に教えてやろう」のような人が来るのです。深い催眠状態に入って、普通の人が、預言者みたいなことを言い出してしまふ。

こういったことが、我々のセッションの現場でも、たまにあるのです。だから、ケイシーのように本当に才能を発揮できて、そして本当にそういった専門のお仕事をするようになった方、そこまでいなくても、それに類似した近いような方というのは、たまにいます。人間は本質的に、そういうものを持っているのではないかなと思うことがよくあります。

エドガー・ケイシーは、その能力を天賦の才として強く持っていたのではないかと思います。

光田先生：エドガー・ケイシーは、24歳から催眠状態でリーディングをするようになります。最初の22年間、46歳までは「生まれ変わり」とか「霊」とか、一つも言わなかったのですよ。

ケイシーは、病人がやってきて、あなたの病気の真の原因はここにありますよ、と、まるでCTとかMRI写真を見るかのごとく伝えた。例えば、「あなたの病気の原因は、頚椎の3番がズレています」「尾骨にズレがあるから、てんかんが起きてます」あるいは「腰椎の4番がズレているから、統合失調症になってます」というふうな言い方をしたのです。

解剖学的に相手の状態を説明し、なおかつ、そこにケイシーが主張するような治療を施すことによって、彼らは治癒したのです。ケイシーの所にやってきた人たちというのは、基本的に当時の医学では治せない人たちが来ました。病院は、あくまでも症状



NPO 法人日本エドガー・ケイシーセンター設立当時

に対して治療する。でもケイシーは、彼らの疾病の本当の原因を医学的に指摘し、どういう治療を施せば、それが治るかということも教えた。さらに驚くのは、ケイシーの指示を実際にやってみると、劇的に治癒したのです。

そして46歳になった時に、哲学に関心を持っていた人から、「ケイシーさん、あなたのその能力は、病気の治療以外にも使えるのではないですか」と言われた。試しに、哲学的な質問をしたところ、それらの形而上学的な質問に対しても、問題なく答えられるということがわかりました。

ところが、ケイシーはショックを受けるわけですよ。敬虔なクリスチャンである自分の口から「生まれ変わり」や「霊魂」の話が出てきたわけですから。ケイシーは、狼狽しました。自分の口を通して語っているのは、ひょっとしたら悪魔ではなからうかと。そして、実際、しばらくリーディングを放棄したんです。

ケイシーがそのことで悩んでいると、最初に哲学的な質問をした人が、「ケイシーさん、自分の情報に疑問があるのだったら、その疑問点をあなた自身の情報源に問い合わせをしたらどうですか」と提案したのです。それで、ケイシーは、自分が疑問に思うことを、次々とリーディングで問い合わせ、その答えにさらに疑問が湧くようなら、その疑問をさら

【第3号特集】

に聞く。これを繰り返すことによって、最終的には、「人間の本质は永遠不滅の魂であり、魂の錬磨とカルマの解消のために何度も生まれ変わり、いずれ地球に生まれ変わらないレベルに達する」ということを納得するようになるのですよ。

このプロセスは、唯物論者を説得する上には非常に有意義ですね。科学的唯物論を打ちのめすのですよ。なぜならば、現象だから。現象を否定することは、科学の態度にもとりますからね。逆に科学的な考え方のトレーニングを受けた人ほど、エドガー・ケイシーの業績に信服するはずなのです。

村井代表：本当におっしゃる通りですね。本当にケイシーがすごいと思うところは、普通の庶民として生きたことです。何かキンキラキンの格好した宗教家、そういった人たちもたまに、ちょっとした奇跡的な現象を作ったりするのですけれども、これはプラセボ効果で説明がつくと思うのです。エドガー・ケイシーは、それ以上の事を成し遂げていますね。

光田先生：エドガー・ケイシーは、高校を一年で中退しています。仕事は写真館を経営していて、午前10時と午後3時の1日2回、催眠状態に入って、困っている方々の相談を受けたわけです。

村井代表：ケイシーの人生でのあり方・生き方というのが、とても魅力的です。マズローがいう自己超越した人というのは、普通の世界で生きていて普通の生活をしていて普通の服装してるというのですね。そういう人の中に自己超越者がいる。エドガー・ケイシーもそのような方だったのだらうと思いますね。

光田先生：ケイシーは物心付く頃からオーラが見えたり、亡くなった人と自由にコミュニケーションできました。そういった意味で、普通の人ではなかったのですが、催眠状態に入らなければ、リーディングレベルまではいかなかった。オーラを見たり、亡くなったおじいさんやおばさんと喋ることなどは、自由にできたのですけどね。ケイシーのリーディング能力は、彼自身が病気になることで発現したんです。失声症という病気になって声が出なくなって、どの病院に行っても治らず、

ドクターたちからは「生涯治りません」と言われて、落胆した。声を失って1年経った時、サーカスの一座と出会い、その中に催眠療法のできる人がいたのです。その人から「催眠療法を試しませんか」と言われ、それがきっかけでリーディング能力に気付くわけです。

ケイシーは病気になったこと自体も、おそらくは、そういう道に行かせる運命だったと思うんです。

村井代表：光田先生自身は、ヒプノセラピーを勉強されたり、ご自身が受けたことはありますか？

光田先生：あります。

村井代表：その時にケイシーのように、なりませんでしたか？

光田先生：ならなかったのです。もしも、そういう驚くべき情報を出せる人に遭遇したならば、科学的な事とかも聞いてみたいですね。

例えば、ワクチンはどうなのかとか、コロナはどうしてこのような新型に変化したのだとか。ピラミッドはどうやって作られたのだとか、UFOは何で来るのだとか、UFOはどうやって飛んでくるのだとか……そういうことを聞いて、もしも、そこに科学的なアドバイスとかで情報を与えてくれるのであれば、信憑性がいいよ高まりますよね。あるいは、人間の能力は、高い次元に開発できるということが証明されますね。

ここで重要なのが、我々の現在のテクノロジーで実現できる情報かどうかです。ケイシーの場合は、FMラジオを考案したミッチェル・ヘイスティングさんという人の相談を受けて、FMラジオの作り方を彼にアドバイスしました。そういった意味でいうと、FMラジオはケイシーの情報に基づいて作られたものです。現代のテクノロジーで実現可能な範囲のもので、なおかつ、今ないもの。今はないけども、作ろうと思えば作れるようなものの情報を出してくれるといいですね。

ヒプノセラピーを通して、何か発明・発見したなどあればいいではないですか。ヒプノセラピーという領域は、きちんとした領域だということが分かれ



エドガー・ケイシーセンターにて

ば、人間の能力というのはこういう形でも探究できるのだということにもなるし、発明もできるわけですからね。ほんとうに大学で研究してほしいです。

村井代表：ケイシーがリーディングで述べているカルマの応報について光田先生の考えを教えてください。

光田先生：「人は蒔いた物を刈り取れ」です。これを言う時には、その前に「神を欺くことはできない」という言葉を付けて語ります。あるいは別の言い方で、「人は自分の吐いた一言一言に出会うことになる」とか、「あなたが人にしたことを、あなた自身が経験することになる」という言い方もあります。

村井代表：因果応報ですね。

光田先生：ケイシーは、それを具体的な現象や人の人生の中で説明します。あなたが今こういう状態にあるのは、あの過去世でこういうことをしたからだ。もし、これを今生で刈り取りたいと思うのであれば、これこれをしなさいと。

ケイシーは、本当の原因はここでこういう治療法を施しなさい、そうすれば健康になるよ、と。これと同じです。あなたの魂は、過去のこういうカルマを持ち越してきた。これを浄化するために、これこれの努力をしなさい、と。実際そういう努力をした方々は、自分の悪しきカルマを解消し、自分の人生を高めていくことができた。

村井代表：ピラミッドの内部空洞が発見されました

が、アトランティスのリーディングがたくさんある中で、我々が知らないような何か面白い貴重な話があれば、お聞かせください。

光田先生：ピラミッドについて膨大なリーディングがあります。クフ王のピラミッドの真ん中あたりに、空間があるらしいということが発表されましたが、もっと大きい構造物が地下にあるはず。ケイシーによるとスフィンクスの右前足あたりから通路があって、ピラミッドの地下に繋がっているということです。

そこには非常に大きな宝物庫というか、ストアハウスがあって、アトランティス大陸から持ち込まれたテクノロジーの遺物も入っているらしいのです。そちらが見つかれば、世の中の常識はひっくり返りますよ。

ケイシーが言うには、ピラミッドは元々上の方に合金が載っていたのだそうです。石ではなくて、白金と金を主成分とする合金で、それがピラミッドを波動的に封印したと。その合金を打ち鳴らすことによって、ピラミッドの石がさらに密着した。地下の入口も封印されている。その封印を解くことができるのは、封をした本人たち3人が、同時期に生まれ変わって、ピラミッドに行くことだとケイシーは主張しました。

村井代表：ケイシーは、その3人を特定はしていないのですか？

光田先生：特定してます。エルカ、アトラン、ヘプトサプトという過去世の名前を言っています。ヘプトサプトはケイシーの時代に生まれ変わっていました。あと2人が揃えばよかったのですが、エルカとアトランは揃わなかった。

ヘプトサプトというのは、今世の名前ではなく、あくまで当時の名前ですからね。その入口は、ピラミッドの頂上からの太陽の影が落ちるところにあるのだそうですよ。だから、冬至から夏至までの間、どこかの太陽の通り道をずっと調べていったらわかるはず。です。

ピラミッドの地下から、アトランティス時代の人たちが使っていた乗り物が出たら、世界は仰天する

【第3号特集】

でしょうね。ケイシーが言うには、アトランティス時代の乗り物には、タイヤがなかったのだそうです。なぜなら、彼らが浮くことができたから。浮いて移動できるのだから、道路を舗装する必要もなかった。浮いたまま水中にも潜れたということです。

現代のテクノロジーをはるかに超えるテクノロジーを実現していた時代があったのです。ピラミッドは、石を浮かせて作ったとケイシーは主張しています。

村井代表：エドガー・ケイシーの存在というのが、ヒプノセラピーの世界でもかなり大きいのですよね。やはりケイシーが活躍した30年代から40年代前半あたりで、ケイシーのことを知り、そして、ケイシーが行ったようなことをしたいと思ってヒプノセラピーを始めたという方が結構いらっしゃる。

アメリカの催眠学会で、そういう方に何人もお会いしました。エドガー・ケイシーが行ったことで、とても感銘を受けて自分も同じことしてみたいと。つまり、誰かを催眠に入れることによって、そういう現象を作りたいという、そういうことですね。でも、なかなかそういう人は出てこないですね。

光田先生：ケイシーも過去世に理由があって、そういう能力が出たわけですからね。誰にでも出るわけではない。

村井代表：モーリー・バーンスタインというコロラド州デンバーのヒプノセラピストが、1956年に『The Search for Bridey Murphy (ブライディ・マーフィーを探して)』という本を書いています。彼の知り合いのヴァージニア・タイという女性を催眠状態で前世に誘導すると、アイルランドで昔生きていた、ブライディ・マーフィーという女の子だったと語ったのです。

その内容を全部テープレコーダーで録音して出版した。その時にデンバーの大手新聞社2社が、前世肯定派と否定派に分かれて、論争をするのですね。新聞記者が、現場に行って昔のことを調べたりして。それが全米に広がって行って、とても人気になって、1989年までに累計600万部以上この本が売れたのです。

バーンスタインは、バージニア州のエドガー・ケイシー財団(A.R.E)を訪問してケイシーのご長男のヒュー・リン・ケイシー(Hugh Lynn Cacey)さんに会い、ケイシーに関する3つの質問を投げかけました。1. 彼は詐欺師でなかったのか。2. 彼の医学的診断は正しかったのか。遠隔での診断が本当にできたのか。3. 「生まれ変わり」は本当にあるのか。ヒュー・リン・ケイシーさんは、誠心誠意答えてくれたそうです。

その後、バーンスタインは、ケイシーのリーディングを受けた方たちにも会いに行きケイシーが本物であるとの確証を深めて、感銘を受け、最終的にケイシーを称賛しています。ヒプノセラピーの世界で、エドガー・ケイシーの影響を受けた人は、大勢居るんです。

光田先生：ケイシーは若い頃、ドクターのグループと研究した時期があるのですよ。

ケンタッキー州のドクターのグループが10人くらい集まって、エドガー・ケイシーを研究しました。当時の医者たちもびっくりしたのですよ。高校を1年で中退した人が、なぜ次々と難病人を治すことができるのだと、なぜ自分たちよりも治癒率が高いのだと。研究して色々な実験をしたみたいです。

ドクターが、自分の病院の名前と病室の番号を言って「今その病室にはどんな人が入院していますか」「この人はどういう病気ですか」と聞くと、ケイシーは問題なく答えることができた。そして、この人の心拍数、呼吸数、体温なども難なく答える。ある実験中、あるドクターが、リーディングをしている最中のケイシーの頬に注射針を刺したのです。ブスツと。

ところが、催眠状態のケイシーは全く痛みを訴えなかった。調子に乗ったそのドクターは、ケイシーの左手の小指の爪をメスで剥いだのです。それでも痛みを訴えないし、血も出なかった。ところが、ケイシーを催眠状態から覚ました途端に、頬からも指からも血がどっと出たんです。ケイシーは、とても深いトランス状態に入っていたことがわかりますよね。

それこそ、ヨガのサマディ状態です。それぐらい深い状態に入っていたがゆえに、次元の高い情報を

もたらすことができたのだらうと私は思うのです。ケイシーは、毎回、それほど深い催眠状態に入ることができたのです。晩年には、自分はどのようなプロセスで催眠状態に入るかを覚えていられるようになるんです。

ケイシーによれば、まず暗い世界に自分が入って行く。すると、遠くの方に小さい光の点が見える。その光の方に向かって行くと、光のトンネルのようなものがあって、そこをらせん状に上昇するそうです。毎回、ここに入る時には、自分はこれで死ぬかもしれないと思いながら入るそうです。そして、光を抜けると大きな記録の広場に到着して、そこで色々な情報を与えられた。



リーディングの様子

村井代表：いわゆるアカシックレコードですね。

光田先生：アカシックレコードには、記録の門番とか守護者がいて、その人が今回の依頼者のアカシックレコードはこれですよと、1冊の本を渡してくれた。ケイシーはそれを開く必要がなく、手に持っただけで、言うべき内容が自分の中に流れてきたそうです。

本人が秘密にしたいことは、自分の中に入ってこないそうです。本人がまだ自分が受け入れられない過去世の事実は、ケイシーの中にも流れてこないそうですよ。ある意味、伏せ字になっているらしく、読もうとしても読めない。ですからプライバシーが丸裸になることは、ないということです。

村井代表：なるほど。と言うことは、一旦、この本

人の中に入っていた情報を、ケイシーが読み取っているってそういう感じですかね？

光田先生：過去世の理由に関して言えば、本人の体に入るわけではなくて、直接アカシックレコードの領域に入って行って、その人のアカシックレコードを渡されて、それを読んだみたいですね。

病気の治療の時には、本人の無意識の中に入ったそうです。そういう時には、頭の方角が違うのだそうですよ。

アカシックレコードを読みに行く時には頭を北に向けないといけない。病気治療のリーディングをする時には頭を東に向けないと、ケイシー自身の調子が悪くなったそうです。

ケイシー自身の説明では、これはポラリティ（極性）の問題だそうです。頭を北に向けないと、魂が肉体から抜けにくいのだそうです。ケイシーは、アカシックレコードを読みに行く時には、体から魂を抜かないとその領域に行かなかった。いわば、磁場の線に体を合わせないと、うまく魂が肉体から抜けなかった。

ところが、病気の治療の時には魂が抜ける必要はなくて、相手の無意識の中に入れて良いただけなので、頭は東に向けた。間違えて頭を東向きにした状態でライフリーディングを取ると、目が覚めた後で、ケイシーは、大抵強いめまいを感じたそうです。ヒプノセラピーもそういう磁場の影響があるかもしれないですね。

北に向けた方が入りやすいとか、東に向けた方が入りやすいとか。何か病気の治療などを聞くのだったら、東の方が案外良いかもしれませんね。

村井代表：もし、誰か、ヒプノセラピーでケイシーのような状態になった時に、光田先生自身が聞いてみたいことがあったら教えてください。

光田先生：重力のコントロール！

これは、ぜひね。今の物理学も、重力をコントロールできるとは思ってないですから。ケイシーは、アトランティス時代には、我々とは違ったエネルギーシステムがあったと言うのですよ。

それは、水晶を使ったようですが、次元の違った

【第3号特集】

エネルギーシステムで、電線とかケーブルもいらな
いのだそうです。相手側に受信装置さえあれば、ど
のような障害物も通過して相手に届くというのです。
自動車も燃料タンクが不要なく、受信装置だけ持っ
ていれば、中央の発電システムから障害物を通り越
してどこにでも届くのだそうです。すごいですよね。

ケイシーのリーディングが予見していたテクノロ
ジーだってありますよ。例えば、レーザー光線や現
代のグラスファイバーなどです。

村井代表：ケイシー療法の伝道者の光田先生から見
た、現在の日本の医療やそのあり方に対してはどう
思ってるんじゃないか？という皆さんからの質問があ
ります。

光田先生：医学の進歩は尊敬しています。ただし、
現場というか実際に病院で行っている治療を見ると、
それは製薬会社から言われた薬の出し方を、そのま
ま行っているだけではないかという治療が多くて、
そのギャップに驚きます。あまりにも専門分化しすぎ
て、この症状にはこの薬という知識ばかりで、例
えば、てんかんと聞いたら、今の医学は頭の病気だ
と思うわけです。

ケイシーのリーディングを調べれば、てんかんは
頭の病気ではないです。むしろ背骨の問題です。て
んかんの場合は、頰椎の1番2番か、尾骨とはつき
りわかっています。仙骨も時々入るけれど、ほとん
どは尾骨です。解剖学的に言えば、てんかんは副交
感神経のトラブルです。

統合失調症もドクター達は頭の病気だと思ってい
ますが、ケイシーは頭に原因を見出したことはな
いんです。これも背骨のトラブルなのです。どこにひ
ずみが生じるかという、頰椎の3番とか胸椎の9
番とか腰椎の4番だと大体決まっています。これは、
交感神経のトラブルです。症状だけ一生懸命研究す
るから、本質的な治療にいかない。

ケイシー療法でとても成果が出ている有名なもの
として、アトピー性皮膚炎や乾癬があります。尋常
性乾癬は原因不明の難病で、治療法がないといわれ
る皮膚疾患ですが、ケイシー療法での治癒率は95%
を超えます。ケイシー療法で治らなかった人を私は
見たことがないです。乾癬は症状は皮膚だけれど、

それはあくまでも症状です。皮膚に一生懸命ステロ
イドを塗っても、治ったように見えるだけで、根本
的な治療になっていない。ケイシーは、乾癬の原因
は小腸で、具体的には十二指腸だと言います。

解剖学的に言えば、十二指腸の上皮細胞の結合が
壊れ、それがアトピーや乾癬を招くのです。そこに
治療を施せば劇的に治癒します。その間には厳格な
食事療法が必要だったりしますが、それをやってみ
れば、大体3ヶ月ぐらいでアトピー性皮膚炎とか乾
癬は治ります。でも、そういうことをドクターは残
念ながら学校で教わってない。心あるドクターは治
したいと思っていますが、習った方法では治らない。
かといって大学の医学部は、ケイシー療法を教えな
い。

村井代表：神奈川歯科大学大学院統合医療講座のケ
イシー療法講座では、どういった内容を教えている
のですか？

光田先生：それぞれの疾病ごとに、一般の医学的分
類に当てはめて、呼吸器系とか消化器系、泌尿器系、
生殖器系、神経系など全部で15の系に分けて、それ
ぞれに役立つケイシー療法を教えています。

たとえば、てんかんとか、統合失調症であれば、
筋骨格系の調整だけでかなり上手くいきますが、多
発性硬化症とか筋ジストロフィーなどの神経疾患と
なると電気療法を行わなければいけません。ケイシ
ーは神経の病気は、神経そのものがトラブルを起こ
すことは非常に少なく、実際には神経細胞に必要な
元素、栄養素を作らなくなったところに問題がある
ので、栄養素を作るように仕向けければ、神経は回
復すると主張するのです。実際にそれをやってみる
と、ちゃんと効果を出してくれる。そういった講義
を大学では15回に分けて行っています。

村井代表：ぜひ、ケイシー療法がいろんな方に伝わ
って、ケイシー療法を取り入れた医療を行える人が
増えるといいですね。

光田先生：ありがたいことに必要に迫られていると
ころは、使ってくれています。例えば、介護施設で、
ケイシーのオイルマッサージをすると、お年寄りが

とても元気になるそうです。ある介護施設では、コロナの時にもものすごく呼吸器系を悪くする人が増えたそうですが、アップルブランデーの蒸気を施設の入居者の方々に実践してもらったら、改善して喜ばれていると、聞いたばかりです。

村井代表：ケイシーが宝石について語ったことをもとに書かれた本がある、と聞きましたが、ケイシー自身は宝石についてどういったリーディングをしたのでしょうか？

光田先生：旧約聖書の中に、祭司たち、神官たちが神と交信をする時に宝石を使ったと書いてあります。12種類の宝石を一つの布に縫い合わせたもので、エフォドと言う名前がついていますが、その宝石を触りながら神と交流したということを書いています。ユダヤ教の神官たちは、宝石にはそういった神秘的な力があると知っていたわけですね。

ケイシーのリーディングの中に、とても驚くべき宝石があるんです。「アズライト」という青色の宝石です。私も持っています。主成分は銅。ケイシーはこれを「しゃべる石」と言ったのです。「歌う石」とも言いました。ただし、しゃべらせるには、太陽光線に当てなければいけないのです。

太陽光線に当てると霊的な作用が強くなって、霊界との交信に使えるんです。ケイシーはこれを使って、実際に亡くなったお母さんと交信したことがある。アズライトには、我々の霊能力を増強させる力があるとケイシーが主張したので、ケイシーを知っている方々は、皆、大抵アズライトを持っていますよ。

村井代表：編集委員からもらった次の質問ですが、今、色々な経済的な不況だとか、心に後遺症などがあり、命を絶ちたいと思っている方が増えていますが、光田先生はそのような方にどのようなお声掛けをしますか？

※ 光田先生が質問にお答えくださった素晴らしい内容を、以下の動画にてご覧ください

<https://youtu.be/xBZrZYxB7us>

村井代表：素晴らしい。今、死にたい方への一言。神は私たち一人ひとりを見ていますね。

皆が神の力で繋がっている。繋がって生きている。それをどう理解するかは、一人ひとり違うかもしれないけれど、皆が繋がってるなど、ヒプノセラピーをしていてもそれを感じます。

今日は貴重なお話をたくさん教えていただいて、ありがとうございます。

私もエドガー・ケイシーが大好きで、色々と自分でも本を読んだりしましたけれど、光田先生はずっと何十年もケイシー一筋で、深い造詣をもって、我々がまだ気が付かないところまで、懇切丁寧に教えていただきました。本当に感謝です。ありがとうございます。これからもエドガー・ケイシーの福音を届ける伝道者としてますますご活躍されますよう祈っています。

奥田真紀：本日は貴重なお話、そのどれもが大変興味深く、そして最後の素晴らしいお話にも涙してしまいましたが、大変貴重なお話をお聞き出来る機会になりました。この度は大変お忙しい中、本当に貴重なお時間をいただきありがとうございます。

【NPO 法人 日本エドガー・ケイシーセンター】

<https://edgarcayce.jp/>



対談当日の様子

【ケーススタディのすすめ】

～クライアントさんに よりよいセッションをご提供するために～

JBCH 理事 さんご しゅいろ 珊瑚 珠色 先生

News Hypno では、臨床経験豊富なヒプノセラピストの事例をレポートすることにより、皆さまの臨床ヒプノセラピーの現場にお役立ていただきたいと「ケーススタディ」のコーナーを設けることとなりました。記念すべき第一回目は、JBCH 理事のお一人である珊瑚珠色先生にご担当いただきました。

(編集担当：伊藤若菜・綿引千恵)



珊瑚珠色先生より

本協会の理事をさせていただいている、珊瑚珠色と申します。どうぞよろしくお願いたします。編集担当の方からインタビュー記事のご依頼をいただいた時にアイデアが浮かび、「**体験型ケーススタディ**」をご提案しました。

「**体験型ケーススタディ**」とは、私が代表を務める RAINBOW ORB のスクールで取り入れているヒプノセラピーの学習法です。クライアントさんからご承認を得てプライバシーに配慮して改変を加えたモニターケース（総数 300 以上から適宜選択）を教材に用いて、実際のセッションのリアリティを疑似体験学習していただいています。

「**体験型ケーススタディ**」では、講師がクライアント役になり、受講生の方 1 名がセラピスト役になります。途中でセッションをどのように進行させてよいか迷子になってしまった時には、講師がサポートに入って解説を加えて、そこからまた受講生の方にトライしていただきます。他の受講生の方々はオブザーバーとして参加し、「自分ならどのようにセッションを進行させるだろう？」と考えることが学びになります。その後、クラスの全員でそのケースを振り返る時間も取ります。本番さながらに、実際にあったケースのはじまりからおわりまでを成し遂げるプロセスから得られる“気づき”は、豊富です。受講生同士の練習も勿論勉強になりますが、「**体験型ケーススタディ**」をプラスすることで学習量を増やし、リアルなセッションを行う際に活用できるノウハウをさまざまな角度から深めていただくことが

できると考えて、この方法を取り入れています。これは、モニターセッションのあらましを講師がすべて記憶しているので、可能な学習方法でもあります。数年前まで、当スクールで開催していた年齢退行・前世療法プロセスにおいても、この方法を採用していました。現在は、ターミナルヒプノ応用講座において「**体験型ケーススタディ**」を導入して、ヒプノセラピストの実践力を伸ばし高めることに力を注いでいます。

さて、下記は京都大学教授・臨床心理学者の河合俊雄氏の著書から引用したことばです。

「優れたものに触れることは、勉強や仕事においても重要です。私たち心理療法家は、よく事例検討会というものを行います。これは、複数のセラピストが集まって、誰かが担当した事例を報告して、その事例に即して問題や対応の仕方を検討するものです。事例検討会では他人の失敗から学ぶことも大事ですが、ときどきユニークなセラピストが非常にうまく展開した事例を報告してくれることがあり、その事例報告を聴いているメンバー全員に何らかのインパクトが残ります。すると、そのグループはメンバーみんなが成長していくのです。」

News Hypno 編集担当者より

編集担当者の 2 名が代表して「**体験型ケーススタディ**」にトライしました。特別な体験ができることが想像できたので、楽しみでしかありませんでした。

珊瑚先生のスクールでは、ひとつのケースに十分な時間をかけて「体験型ケーススタディ」を行われるそうです。今回は、オンラインという場における90分という限られた時間のなかで体験させていただいたダイジェスト版でしたが、体験後、わたしたちは興奮状態でその感想を語り、多くのお土産やポイントを受け取らせていただきました。

<珊瑚珠色先生プロフィール>

- ・ヒプノセラピーサロン RAINBOW ORB 代表
- ・ターミナルヒプノアソシエーション代表
- ・一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会理事
- ・日本催眠学会（日本学術会議協力学術研究団体）理事
- ・JBCH 認定ベーシック インストラクター
- ・JBCH 認定アドバンスト インストラクター
- ・JHA 認定前世療法インストラクター
- ・JHA 認定年齢退行療法インストラクター
- ・THA 認定ターミナルヒプノ インストラクター
- ・THA 認定年齢退行療法インストラクター
- ・NGH（米国催眠士協会）認定インストラクター
- ・ABH（米国催眠療法協会）認定インストラクター
- ・IHF（国際催眠連盟）認定インストラクター

クライアントの人生に敬意をはらい、その人生の物語に応じた深みのあるヒプノセラピー（ナラティブ・ベイスト・セラピー）を提供している。また、ヒプノセラピーの臨床経験を積みながらその研究にも取り組んでいる。2023年からは、日本伝統の精神療法に催眠療法を活用するための医局研究員として参画することとなった。学術誌『催眠と科学』にヒプノセラピー関連の論文を積極的に投稿しており、著書には『魂はいつも君のそばにいるよ』（静林書店）CDには『グリーンケア 亡くなった人と会う瞑想』がある。2015年には、前世療法で著名なブライアン・L・ワイズ博士の奈良・和歌山の観光のアテンドを担当し、自宅に立ち寄っていただく機会に恵まれた。その時、ワイズ博士のインスピレーションから「ルネッサンスウーマン」という愛称をいただく。2024年には、ポーランドで開催される国際催眠学会（INTERNATIONAL SOCIETY OF HYPNOSIS）学術大会に登壇を予定している。

ケーススタディ

（実施スタイル）

珊瑚先生：クライアント役／フィードバック&解説
編集メンバー2名：セラピスト役

（クライアントさんの主訴）

不可解な涙と心の不安定



1. セッションお申し込み時のメールでのやりとり

<クライアントさんからの申込メール>

「セラピーを受けるということも、カウンセリングを受けることも初めてなので、不安もあるのですが、今の私に必要としていると強く感じるので、申込みさせていただきました。生理不順で、去年は最長で6ヶ月生理が来なかったことがあり、鍼灸の治療に通っていました。はじめての鍼灸治療中にお腹を触られると、涙が勝手に出てきて、泣いてしまいました。そして、二回目の鍼灸治療でも、また同じように、自分ではコントロールできない何かが働いて、治療中に泣いてしまいました。家に帰っても一人でいる時、心とお腹に意識を向けると、涙が出てきそうになって、自分でも驚くほどに心が不安定です。今回のヒプノセラピーで解決できる何かと出会えればと思っています。よろしくお願いします」（20代前半の女性・学習塾勤務）



珊瑚先生：クライアントさんにどのように返信メールを書きますか？

ー さあ、あなたならどのように返信しますか？まとめてみましょうー

【ケーススタディのすすめ】

わたしたちの回答に対して下記のNGポイントをご指摘いただきました。

ポイント！

NGワードに注意

A. 「ヒプノセラピーで治ります、原因がわかりません」はNG

→ ヒプノセラピーは医療行為ではありません。医療行為ではないことを伝え、こうした断言は避けましょう。

B. 「心に問題がある可能性が高い、問題が解決する可能性が高い」はNG

→ 可能性は示唆したとしても、断言してはいけません。こうした表現は避けましょう。

C. 「ヒプノセラピーで原因を見ていきましょう」はNG

→ ひとつは、セラピストが「診る」と捉えられる可能性があり医師法に抵触します。もうひとつは、占い師に「みてもらう」のような解釈がなされる可能性があり、適切ではありません。

— これらのポイントをふまえて、例として次のようにお答えしてみましょう —

「ヒプノセラピーは医療行為ではありません。しかし、心と身体はつながっているという心身相関という考え方があるように、身体に出ている症状の理由をこころの面から探っていくことができるかもしれません。何かお役に立てることがあるかもしれませんので、もしもよろしければお越しくください。必要なら体験をされることとなります。」

2. 当日：事前のカウンセリング



珊瑚先生: 当日、クライアントさんがいらっしゃいました。どのようにカウンセリングを進めていきますか？

編集担当がセラピスト体験

＜カウンセリング開始＞

セラピスト: なぜ鍼灸院に通われたのですか？

クライアント: 生理不順で、婦人科へ行きました。するとお腹をさわられると涙があふれてきて、服が濡れるくらいの涙で、「鍼灸師さんからここが痛いのですか？」と訊かれても痛くはなくて、「以前に怪我をしましたか？」と訊かれても、そんなことはなくて。家に帰ってもお腹に意識を向けるだけで涙がでてきて、そのうち苦しい気持ちになって、2回目の鍼灸の時に、「ヒプノセラピーを受けてみたら原因がわかるかもしれない」と言われて、ネット検索をしてこちらを見つけました。

セラピスト: そうだったんですね、それはお辛かったですね。それでは、その涙の原因を知りたいということでもよろしかったですか？

クライアント: はい。

セラピスト: それではその原因を一緒に探っていくために、ヒプノセラピーをさせていただいてもよろしいでしょうか？

珊瑚先生: ここで一旦ストップです。この時点でセラピーに入っていくのは時期尚早です。“へのへのもへ子さん”にセラピーを行うのですか？この方がどのような人物なのかを何も知らないうちに、そして、生理不順についての情報も知らないうちに、セラピーを行うのでしょうか？生理不順は一体いつからなのか、つまりは、その方と月経にまつわる物語についても聴きとっていく必要があります。また、「それはお辛かったですね」とは言わないかもしれません。実際にその方が語られる言葉の表現を聴きたいわけです。加えて、現在進行形のお悩みなので、「お辛かった」という過去形の文法は不適切です。実際のセッションでは、「不可解な涙が出てどのような気持ちになられましたか？」と柔らかな調子で質問をすると、「愛犬が避妊治療をしてお腹の傷をかくしてうずくまっていた記憶を思い出したりして、とても苦しくなりました」などなどと教えてくださいました。（初潮からはじまる生理不順の物語は、長くなるのでこの誌面では割愛します。）

ー クライアントさんをホリスティック（全人的）に捉える上でのポイントの中から幾つかを教えてくださいー

ポイント！

確認すべきこと

A. 幼少期の家族構成

家族はそれぞれどのような方で、ご本人は家族にどのような思いを持っているのか確認しましょう。

B. クライアントさんの歴史

「現在、どのようなことをしているのか（仕事）？」

「それより以前は？」など、クライアントさんの歴史を辿っていきましょう。

※カウンセリングの手法を取りながら過去を遡っていくと、催眠状態に入っただけことができます。そうすると、自然にご自身の好きなことなども自ずとわかってきます。

C. 主訴に関する確認

- ・ヒプノセラピーを受けるきっかけになったこと
- ・身体のお悩みはどのくらいの期間あるのか
- ・どんな感情・感覚になるか
- ・ヒプノセラピー後は、どのようになりたいか

などを確認していきましょう。

3. テーマ設定



珊瑚先生: それでは、カウンセリングの続きをしていきましょう。

編集担当がセラピスト体験

<カウンセリング：お仕事について>

セラピスト：ところで今のお仕事はどのようなこと

をしていらっしゃいますか？

クライアント：塾講師です。

セラピスト：お仕事はどう感じているのですか？

クライアント：好きです。

セラピスト：どうして好きなのですか？

クライアント：子どもが可愛いからです。

セラピスト：何歳くらいの子を対象にしているのですか？

クライアント：小学生です。



珊瑚先生: 時間が許しませんので、ここからの流れを解説します。社会に出てからすぐのお仕事についてお訊きすると、新卒で入ったのは写真関連

の会社でした。カメラマンとしての数年の修行は楽しかったとのことでしたので、なぜ楽しかったのかを尋ねると、被写体の幸せな瞬間を切り取るのが楽しかったとのことでした。

主な被写体についてお訊きすると、家族の幸せなシーンとのことでした。その後、ご家族の経営する塾のお手伝いのためにカメラマンの道を一旦脇に置かれていましたが、土日はお友だちに頼まれて、お友だちのお子さんの七五三の写真を撮ったり、インスタにそのファミリーフォトをあげたりされているというお話でした。このようにカウンセリングの流れの中で、適切に質問をしていくとキーワードが浮かび上がってきます。

その後、クライアントさんの小さい時からの人生のストーリーを、その方の人生の物語の歴史を必要に応じためぐり方をしながら“拝読”していきました。もちろん、お母さん、お父さん、家族関係の人物相関図もつかめます。カウンセリングを深めるからこそ、クライアントさんの人となりも伝わってきます。また情報を把握していく時には、クローズドクエスチョンではなく、オープンクエスチョンを用います。ダメな例として「お母さんとの関係性に問題はありますか？ありましたか？」のようなクローズドクエスチョンです。これでは、話が“Yes” or “No”で終わってしまい、また何の配慮も情緒もない訊き方であるため、ラポールの構築の妨げになり得るとと

【ケーススタディのすすめ】

もに、セッションのテーマや目的を見立てるための貴重な情報を得ることができません。

さて、この方は、お見合い結婚をした両親の不仲を憂い、愛のない結婚により生まれた子どもというアイデンティティを持っておられました。それにより、幸せな結婚を思い描けない、自分は結婚しないかもしれないと長年思い込んでこられたわけです。しかし、カウンセリングの中で促されて語られるうちに、カメラマン修行中に被写体として家族の幸せを切り取ることが好きという自分、塾の子どもたちが可愛くて仕方がないという自分、（他には、合気道で指導する子どもたちを大切に思う自分）などに気付かれて、「幸せな家庭を築きたい」という本当の気持ちを発見されました。その発見を掬いあげるようにして、セッションのテーマを次のご提案としてご快諾いただきました。

テーマ：不可解な涙の理由がわかり、また、幸せな家庭を築きたいという願いに対してアドバイスとメッセージをくれる場所（潜在意識の中）に行くセッション

RAINBOW ORB ではこの段階でヒプノセラピーについての説明を行います。わかりやすく丁寧にメタファーなどを用いながらお伝えしましょう。（＝安心と信頼のなかでのセッションのガイダンスと環境整備）

4. セラピー



珊瑚先生：このケースではいくつかの催眠療法の技法の選択が検討されます。年齢退行療法、前世療法、ソマティックセラピーなどです。ご本人

が「前世かもしれない」とおっしゃったのでそれを尊重し、最初は、前述のテーマを着地点とした前世療法を試みました。しかし境界線突破法の前世の扉がどうしても開きません。このようなケースでは、どのように対処したらよいのか、いくつかの方策がありましたね。

この時は、自分自身のインスピレーションから、次

のように落ち着いた声で語り掛けました。「もしかしたら、前世に涙の理由がないのかもしれませんがね」もちろん、他の方法も考えられるでしょう。しかしこの時は、「感情×感覚の架け橋法」に切り替えました。そう誘導した方がいいと、私自身のインスピレーションで感じたのです。このケースでは、前世が目的地ではないことをご本人の「顕在意識」は知らなくとも「潜在意識」は知っていたのかもしれませんが。結果として、年齢退行療法を行うことになったのですが、このようなパターンも想定内ですので決して慌てる必要はありません。平静にセラピーを進行させていきましょう。セッションの事後カウンセリングで、「まさかあのことが、ここまで身体に影響しているとは思いませんでした」と、ご本人は驚きのコメントをされました。過去の“あの時”から“あの記憶”は、嚴重に封印されていたと思われます。事前カウンセリングで言語化されなかったこの記憶こそが、不可解な涙の「原因記憶」でした。

さあ、ここからの続きは、編集者のお一人にトライしていただきます。ちなみにネガティブな感情を深く感じてもらいそれを架け橋に原因記憶につなぐ方法は、大切な選択肢のひとつです。この技法に限ったことではありませんが、事前のカウンセリングできちんとラポールを構築して、クライアントさんに安心で安全な信頼の環境にいると感じていただくことは非常に大切です。ラポールが構築できていれば、おのずとうまくいきます。

編集担当がセラピスト体験

セラピスト：では、お腹に意識を向けてください。じーっと感じてみてください。そうしたら、どんな感情が湧き上がってきますか？

クライアント：怒り。

セラピスト：じゃあその怒りを感じて。怒りを安心して感じるすることができます。その怒りを感じて、何か湧き上がってくるものがあったら教えてください。

クライアント：お風呂場。

セラピスト：……お風呂場で何をしていますか？

クライアント：お風呂から上がって、服を着ようと思っただけの状態です。

珊瑚先生：年齢も訊いてください。

セラピスト：あなたは何歳ですか？

クライアント：中学2年生。

セラピスト：周りでなにか気付いたことはありますか？

クライアント：お父さんが入ってきた。

セラピスト：今どんな気持ちになっていますか？

クライアント：怒りで震えています。

セラピスト：お父さんはどうして入ってきたのでしょうか？

クライアント：わからない。

セラピスト：わからないけれど、お父さんは入ってきてしまったんですね。お父さんはあなたを見て何か言っていますか？

クライアント：何も言わず、何か、洗濯物を洗濯機に入れて去って行った。

セラピスト：あなたは何か声を掛けていますか？

クライアント：「ノックしてよ！デリカシーないわね！」って。

セラピスト：お父さんはそれに対して何と答えていますか？

クライアント：答えないです。

セラピスト：あなたは真っ裸でいる時にお父さんが入ってきて……

珊瑚先生：そこはオウム返ししなくてもいいです。

（*思春期の女性への配慮として）



珊瑚先生：中学2年生の時の怒りのエネルギーが下腹部に残ってしまったと思われるケースと推察できます。潜在意識が導いた不可解な涙の「原因記憶」は、どうやら「お父さんとお風呂場でのエピソード」だとわかります。父親との未完のコミュニケーションを完結させるために、服を着て安全な状態で、父親と対峙してもらいました。（人格移動）

性的虐待のケースの場合は、人格移動を行うのは不適切であることはおわかりになると思いますが、このケースはどうやらそうではありません。ご本人は一人の女性として「男性に裸を見られた」という羞

恥心を感じています。一方の父親にとっては、ただの「自分の娘の裸」であって、全く悪気はないようなのです。

未完のコミュニケーションを完結させるために、父親との対話を促したところ、父親から謝罪の言葉が出てきました。ご本人は「怒りではなくあきらめです」とおっしゃり、和解には至りませんでした。そこで、「あきらめ」を癒すためにこの親子の過去の幸せな記憶の処方を試みることにしました。でもこの処方も勝手に行うわけではなく、クライアントさんにお伺いを立てて同意を得てから行うことが大切です。このケースでは、同意を得ることができました。（他にも方策があるでしょう。しかしこの時、自分自身のインスピレーションに導かれて、このようなアプローチを行いました。）ここからの続きは、編集者のお一人にトライしていただきます。

編集担当がセラピスト体験

セラピスト：この人生の過去のお父さんとの幸せな記憶に戻っていてもよいですか？

クライアント：はい。

セラピスト：では、私が数を3つ数えたら、その記憶の中に戻ってゆきます。3、2、1……

セラピスト：今どこにいますか？

クライアント：乳母車の中。



珊瑚先生：ここで解説を入れていきます。状況を確認していくと、初詣の境内で、1歳にも満たない自分が乳母車に乗せられ、父親がそれを押している場面だということがわかります。近くにはお母さんと兄弟たちもいて歩いています。一見幸せそうなシーンですが、小さなその子の気持ちをきいてみると……。ここからはトライしてみてください。

編集担当がセラピスト体験

セラピスト：赤ちゃんのあなたは、お父さんに乳母車を引ってもらってどんな気持ちですか？

クライアント：最悪。

【ケーススタディのすすめ】

セラピスト：最悪？どうして？

クライアント：お母さんが良い。お父さんは嫌。お母さんに乳母車を引いてほしい。

セラピスト：そう思っていたんですね。

珊瑚先生：そう思っているのですね、と現在形にしましょう。

セラピスト：どうしてお父さんのことを最悪って思うの？

クライアント：嫌いだから嫌い。

セラピスト：どうして嫌いなの？

クライアント：だから嫌い。

セラピスト：きっかけがあったの？

クライアント：わかりません。

セラピスト：なんで嫌いになったか知りたくないですか？



珊瑚先生：はい、一旦ここまで。このセッションでは「嫌い」を深掘りしませんでした。なぜなら、幸せな記憶へ戻って行くという「前提」で年齢退行させたところ、乳母車のシーンが出て来たからです。このようなシーンであっても、この方の“潜在意識の判断”では「幸せな記憶のカテゴリ」に入ると思われました。その記憶の何が幸せなのかをクライアントさんに訊いてみることも大切なのですが、ここで深掘りする必要はないと感じて、「さらなる別の幸せな記憶」を探して、そこからさらに年齢退行を促しました。引き続きをどうぞ。

編集担当がセラピスト体験

セラピスト：その場面は確認できましたよ。これから数を3つ数えたら、今確認したところよりもっと前の時間で、お父さんとの幸せな場面、よい思い出の場面に戻ってみましょう。3、2、1…

さあ、そこはどこですか？

クライアント：飛行機の中。

セラピスト：今、飛行機の中で何をしていますか？

クライアント：浮いている。

セラピスト：浮いているのは上から見ているのです

か？それとも…

クライアント：浮いているの。

セラピスト：そう。あなたは何歳くらいなのですか？

クライアント：わからない。

セラピスト：飛行機の中で、他に何か見えるものはありますか？

クライアント：お客さんたち。

セラピスト：その中に、気になる人とか、気になるものはありますか？

クライアント：お父さんとお母さんがいる。

セラピスト：今のあなたのお父さんとお母さんですか？

クライアント：うん。

セラピスト：あなたのお父さんとお母さんはどんな様子ですか？

クライアント：元気そう。

(このあたりで少し行き詰まり、時間の都合もあり珊瑚先生にチェンジ)



珊瑚先生：「その飛行機はどこに行くのですか？」と訊くと、ハワイ行のJAL便でした。お父さんとお母さんは若くて、新婚旅行でハワイに向かう機上のカップルであることがわかります。適切に質問を重ねていくと、その場面がわかってきます。そうです、この方は、やがて生まれ来る子どもの魂として新婚の両親を眺めているのです。お父さんとお母さんは元気で幸せそうです。二人の心の中に入って、その気持ちを確認することを提案して了解を得ました。それを行ったところ、お互いに好意を寄せあっていることがわかります。お見合いで愛のない結婚をした両親だと思っていたのに、愛がある結婚だったのだと感じた時に涙が溢れました。愛ある結婚から生まれた私、というアイデンティティに変化した瞬間でした。その様子に寄り添いながら気持ちを丁寧に聴きとっていくと、この感動を中学2年生の自分に伝えてあげたい、とのことでした。魂、中学2年生のご自分、大人のご自分を重ね合わせながら、インナーチャイルドの癒しを行いました。そのシーンは温かく、強く、大きいものだったということでした。そのエネルギーを象徴するカラーを用い

たイメージセラピーを行い、暗示セラピーを施し、癒しの浸透を促しました。この時、お腹に意識を向けてもらおうと平和な感覚だけがそこにありました。後催眠暗示のあとで催眠を解きました。

5. まとめ

主訴：

不可解な涙と心の不安定

セッションのテーマ：

不可解な涙の理由がわかり、また、幸せな家庭を築きたいという願いに対してアドバイスとメッセージをくれる場所（潜在意識の中）に行くセッション

セッションの流れ：

- ①事前のカウンセリング（ライフレビュー）
- ↓
- ②ヒプノセラピーの説明
- ↓
- ③催眠誘導（段階的リラクゼーション法）
- ↓
- ④退行誘導（境界線突破法）
- ↓
- ⑤再退行誘導（感情×感覚の架け橋法）
- ↓
- ⑥年齢退行療法
- ↓
- ⑦未完のコミュニケーションの完結（怒りから「あきらめ」への変容）
- ↓
- ⑧幸せな記憶の処方（あきらめから「癒し」への変容）
- ↓
- ⑨イメージセラピー＋暗示療法
- ↓
- ⑩後催眠暗示
- ↓
- ⑪解催眠

セッション後の変化：

- ・不可解な涙の消失
- ・結婚に対するネガティブな感情の消失
- ・心の安定
- ・月経周期の改善
- ・アトピー症状の消失

コメント：

セッション後すぐ、お腹に意識を向けても涙が出ることはなくなり、逆に幸せな気持ちになるというご報告をいただきました。またセッションの10日後から長年のアトピー性皮膚炎の症状が徐々に改善して、半袖の服を着ることができるようになったと喜びのメッセージもいただきました。さらにその後の経過もお知らせくださり、3～4カ月に1回だった月経周期が月に1回という健常なサイクルに変化されたとのことでした。（その健常なサイクルは、セッションから5年経過した現在も続いておられます。アトピー症状は、完全に治癒。）父親との関係も改善されましたが、そのストーリーについては説明が長くなるので割愛します。ところで、このクライアントさんは中学2年生の時に初潮を迎えられ、同年にお風呂場でのネガティブなエピソードが起っています。これは推察にしかすぎませんが、初潮からずっと生理不順に悩んでこられたこの方の、生理不順の「原因記憶」とその感情と感覚が癒されることで、生理周期の改善やさまざまな副産物が得られたのではないのでしょうか。セッション後、ご本人のInstagramに載せられていた「生まれ変わったような感覚！」というセルフポートレートに掲載許可をいただいで下記にご紹介します。



【ケーススタディのすすめ】

感想（編集担当 A）

今回、珊瑚先生との実践型ケーススタディーを通じ、以下のような事が深く印象に残っています。

それは例えば、

- ・クライアント様のストーリーをリスペクトするご姿勢
- ・カウンセリングだけでクライアント様の内側から、テーマが湧き上がってくる状態
- ・ヒプノセラピーを体験する準備が Ready 状態になるほどの、丁寧なカウンセリング
- ・流れるようにポエティックで美しく、かつ核心に入っていく言葉の選び方
- ・クライアント様とのラポールの結ばれ方

などです。一つひとつがとても素晴らしく感動的でした。ヒプノセラピーとしての学びはもちろんのこと、普段の人との対話全般においても、インパクトが生まれるであろうことを感じました。JBCH のメンバーの皆さんにとって、学びとなる記事をお伝えできたらと思うと同時に、珊瑚先生のターミナルヒプノ講座を、時が満ちた時に受けてみたいと思います。

感想（編集担当 B）

珊瑚先生の紡がれる一言一句が美しく、間の取り方やイントネーションなどが心地良く……

「編集」という理性はさておき、私自身、珊瑚先生の世界観にどんどん惹き込まれていきました。これは……癒されるだろうなあと、私も珊瑚先生のセラピーを体験したいと思いました。

また、今回、「熟練のセラピスト・インストラクターならではの技術」に直接触れる貴重な機会をいただきました。クライアント様に丁寧に説明するべきところ・確認するべきところと、深掘りする必要がないところなど、事前のやりとりからカウンセリング、セラピーに至るまで、全体的にメリハリがあったのが印象的でした。珊瑚先生の、クライアント様の生きてこられた人生に敬意を払う姿勢はもちろんですが、「セラピーという舞台」の演出家として、セッションの環境を最大限整える配慮をされているご様子が、非常に勉強になりました。

普段のセッションや練習で、先生や先輩からその場で直接フィードバックをいただくことはありませんので、こうした機会を積み重ねていくと実践力が身

に付くと感じました！

珊瑚珠色先生のウェブの URL

<https://rainbow-orb.com/>

このケースの学術論文はこちら

『記憶と身体と催眠』

JBCH 勉強会レポート

【ヒプノセラピー勉強会「エリクソン催眠の本質」 (2023年2月15日開催)に参加して～エリクソンは「愛の人」～】

JBCH では、偶数月に勉強会が開催されています（対面も ZOOM も参加可）。毎回、ヒプノセラピーに関するさまざまな内容（テーマ）が扱われており、脳科学の点からもヒプノ関連の最新の情報を得る場ともなります。

今回は、2023年2月に開催された勉強会のレポートをお届けします。

※勉強会への参加は、JBCH 認定ベーシック（基礎）コースを受講して JBCH の会員になれば、どなたでも参加可能です。記事の最後に今後の予定等を掲載してあります。

詳しくは、JBCH ホームページ <https://www.jbc-hypno.org> をご覧ください。

（編集担当：神田早苗 副担当：小倉明日香）

今回の勉強会のテーマ「エリクソン催眠の本質」は、2021年12月8日に行われた勉強会「エリクソン催眠」を、講師の村井啓一先生が、再度、より詳細に沢山のエピソードや知識を織り交ぜながらお話ししてくださいました（参加者18人、ZOOM参加含む）。

☆エリクソンの略歴

ミルトン・ハイランド・エリクソン（1901～1980年）は、11人兄弟の二番目に生まれ、赤緑色盲で失読症であり、17歳の時にポリオに罹りました。

学生時代に催眠に興味を持ち、研究に打ち込み、その後、精神科医として病院勤務を経て、身体状態の悪化により47歳で自宅開業され、共同研究や講演・セミナーを行いました。

50代でポリオの悪化がありながらも、臨床催眠学会の創設会長や学会誌の編集主幹としても活躍されました。

60代半ばで車椅子中心の生活を余儀なくされますが、弟子たちと共著などで著書を発表され、72歳で診療から退きますが、セミナーは続けていました。

77歳で自身の財団を設立し、78歳で亡くなりました。

☆エリクソンの在り方

エリクソンの生涯をみていくと、幼少期からずっとハンディキャップを負い、病気と共に生きていて、「色々な方々の助けを受けながら感謝して生きる」「誰も自分だけの力で生きてはいけない」という

ことを悟り、そうした中から観察眼の鋭さを身に付けていきました。

エリクソンは、クライアント一人ひとりに対して誠実に向き合う姿勢を大切にしました。それは「受け入れること・認めること」であり、「愛（期待・希望）による治療」を行ったということです。

また、どの様な方でも時間は尊く平等であり、「今、自分がどの様な存在として生きているのか（A way of being）」が、クライアントに大きな影響を与えるのです。セッションとは、人生の大切な時間（つまり自分の命）をクライアントに与えること。そして、「誰に人生の大切な時間を使いたいのか」ということを前提として、クライアントに対しては、エリクソンは、必要があれば、クリニックの外でもエリクソン自身の家族をも巻き込みながら、お世話を行っていたということです。

これらは、誰でも真似できることではなく、エリクソンだからこそできたのだと感じました。そのような意味においても、エリクソンは真からの「愛の人」なのだわかりました。学びに触れるだけでも深く癒されます。

☆エリクソン催眠の5つのポイント（「ミルトン・エリクソン入門」オハンロン著より）

- 1 自然思考
- 2 間接的&指示的（直接的）
- 3 反応性
- 4 利用指向
- 5 現在指向・未来指向

【JBCH 勉強会レポート】

※勉強会では、詳細な説明がありましたが、スペースの関係で割愛させていただきます。ご興味がある方は、ぜひ本でご確認くださいね。記事の最後で紹介した写真の2冊も村井先生のオススメです。



村井先生の推薦されたエリクソンの本
左『ミルトン・エリクソンの心理療法ー出会いの三日間』
右『私の声はあなたとともにーミルトン・エリクソンのいやしのストーリー』

☆感想

2021年2月から始めた私のヒプノセラピストとしての活動は、今年で3年目です。勉強会は、様々なテーマで催眠療法の基本的な事を学べますし、敬愛する村井先生が講師をお務めですので、必ず参加するようにしています。そして、勉強会では学ぶだけではない楽しみもあります！

私の居る滋賀県では、セラピスト同士の交流も中々持てない状況であり孤独なのですが（笑）、ZOOM参加で、多くの方々と知り合えることが、またとない楽しみとなっています。

勉強会では毎回、村井先生が参加者の自己紹介にたっぷり時間を取ってくださり、一人ひとりの経歴や人柄を知る事ができ、また、ヒプノセラピーとの出会いなども皆様それぞれで、大変興味深く聞き入ってしまいます。

既にヒプノセラピストとしてご活躍されている先輩の参加もあり、経験に裏打ちされた確かな技量をお話からも感じつつ、基本に立ち返ることの大切さ・謙虚に学び続ける姿勢に感銘を受けています。

クライアントと向き合っていると、私の場合、どうしても「回答（解答）を見つけたい・解決したい」というエゴが顔を覗かせてしまいます。

しかし、上記の5つのポイントの1には、「クライアントの中に答えがある」という内容があります。クライアントをありのままに認め・受け入れること、そのような「愛」の姿勢をエリクソンから学びました。

講義内容も、講師が村井先生であるからこそ語ることでできる視点があり、私自身が先生の包み込むような「愛」に、いつも深く癒されます。

そして、セラピストとして「純真であること」の大切さを、先生ご自身の在り方から学んでいます。

今回の勉強会で心に残った言葉「人は自分の中の思い込みによって、自分の状態を作っている」……私も自分自身の思い込みをなくしていき、まっさらな状態でポジティブな書き換えを行いながら、真摯に目の前のクライアントに向き合っていきたいと思いました。

「愛の人」になるには、まだまだほど遠い私ではありますが（笑）、初心に帰ることができた素晴らしい勉強会でした。

.....

☆2023年勉強会の予定

時間／10時30分～17時（お昼休憩あり）3,500円
税込／1日

詳しくは、JBCHホームページから

<https://www.jbc-hypno.org>

- ・ 2月15日（水）「エリクソン催眠の本質」
※終了
- ・ 4月20日（木）「セックス・セラピー3」
※終了
- ・ 6月23日（金）「催眠誘導とは何か？」
- ・ 8月15日（火）「女と男が理解しあうには」
- ・ 10月11日（水）「前世へ戻る諸々の方法を学ぶ」
- ・ 12月8日（金）「死者との再会で生かされる」

※そのほか「練習会」も、同時間・同料金で毎月開催されています。

ヒプノセラピー困ったときの相談室

この相談室では、新米ヒプノセラピストのひーちゃんが日々クライアントさんに向き合い、催眠療法を行っていく中で遭遇する様々な問題や困りごとに対して、先輩ヒプノセラピストの編集委員Aが懇切丁寧にお答えしていきます。
(編集担当：辻口真紀)



【ひーちゃんプロフィール】

ヒプノセラピーを学び始めてようやく1年。
ベーシックコース、アドバンストコースを学び
終えた後、前世療法プロ、年齢退行療法プロ、
悲嘆療法プロの必須3プロコースを修了し、現
在モニターさん募集中。

【今回の困った】

「前世へ降りたのに、次のシーンへ進んだら今世の幼少期にたどりついた！ どうしよう?!」



ひーちゃん：
前世療法をご希望されたクライアントさんを、「今のご自身に最も影響を与えた前世の時代」へ誘導しました。
すると、ヨーロッパの田園風景の中で、40代の男性であることが確認できました。

それまでの人生を確認するため、その人生の幼少期に家族と過ごしている住まいへ戻るように誘導しました。
「3・2・1。あなたの住んでいる家は、どのような住まいですか？」

「……小さくて木造の一軒家で、畳の部屋にいます……
あ、これは私が小さい頃に住んでいた家です。……私は幼稚園くらいです。」

前世の幼少期へ誘導したはずが、今世の幼少期へ行ってしまいました！ どうしたらいいのでしょうか!!

先輩A：
前世療法をご希望されるクライアントさんを前世へと誘導するのは、セラピストとして当然のことですね。

【相談室】

今回のひーちゃんの場合は、最初の場面では前世の世界に降り立ち「前世の自分」も確認できたのに、次のシーンへ移ったら今世の自分の幼少期だったのですね。この場合、二つの理由が考えられます。

一つは、「前世に降り立ったシーンで、前世の自分を根付かせることがしっかりできていなかった」です。

前世療法で扱う前世の記憶やイメージは、クライアントさんが予想していないものが出てくるのがほとんどです。そのため、前世へ降り立った最初のシーンで、しっかりと前世の時代へ根付かせることが、前世療法を成功させるポイントの一つになります。

前世の自分自身の体型、顔つき、服装、年齢、どんな気持ちでいるのか、周りの風景や人、時代、国、背景などを確認して、前世の世界に根付かせます。この時に、矢継ぎ早に質問しないで、一つずつジックリ確認していくことが大切です。

最初のシーンで根付かせないままに先へ先へと急いでしまうと、クライアントさんの潜在意識は、迷子になってしまいかもしれません。その状態で、「幼い頃の家族と住んでいる家へ」と誘導すると、今世の幼少期の家が出てきたという可能性も考えられます。

もう一つの理由として考えられるのが、「クライアントさんの潜在意識が必要としていたのが、前世よりも今世の幼少期の時代である」です。

ブライアン・L・ワイス博士が著書の中でおっしゃっているように、今世の幼少期へ誘導したにも関わらず、ごくわずかな割合で自発的に前世へ入る方もおられます。

また、逆のパターンもあります。

そして今回のように、しっかりと前世の時代に根付かせたにも関わらず、前世の途中で自発的に今世の自分の過去へ入る方もいらっしゃいます。その場合、前世よりも今世の幼少期の方が必要とみなして、潜在意識が出てくれた可能性が考えられます。

どちらにしても、クライアントさんに確認するのがよいでしょう。

「今、前世へと誘導したら、幼少期の〇〇ちゃんが出てくれました。潜在意識が必要とみなして出してくれたのですが、このまま続けてもよいですか？」

クライアントさんの了承が得られたら、年齢退行療法に切り替えてそのまま進んでいけばよいでしょう。逆にクライアントさんに「いいえ、前世がいいです」と言われたら、そこから前世の時代へと再び誘導しましょう。

確認せずにそのまま進めた場合は、後から、「前世が見たかったのに、勝手に幼少期になってそのまま前世が見られなくて終わっちゃった」というクライアントさんの不満にもつながりかねません。セラピストへの不信感によりセラピーに対する期待がそがれ、その後のセラピー自体もうまういなくなる可能性も出てきます。

また、最初の事前面談で説明しておくことも大切です。

「前世へ誘導しても、まれに今世のご自身の幼少期が出てくることもあります。潜在意識は、問題を解決するにはどうすればよいかを知っています。そのため、顕在意識が前世に行こうとしても、今世の過去に問題解決の糸口がある場合は、潜在意識が今世を出してくる事があります。その時は今世の過去を確認していきましょうね。もしそうなった場合は、その時にもう一度、確認いたしますね」と、事前に説明をして了承を得ておきましょう。

事前の説明をすることで、実際にそうなった時にも、クライアントさんも安心してセラピーを続けられます。

決して無理矢理に進めないことです。

セラピストは何が出てきても、慌てないで落ち着いた態度で、クライアントさんの潜在意識を尊重する姿勢で臨めば大丈夫です。

ひーちゃん: ありがとうございます。

オススメ書籍・メディア

こちらのページでは、ヒプノセラピー各講座の学びとあわせてお勧めしたい書籍・メディア等についてご紹介しています。お勧めの作品は多数ありますが、その中から、ヒプノセラピーの活動に役立つ内容のものを取りあげました。ネタバレにはなりますが、さまざまな情報にご興味を持っていただき、学びを深めるきっかけにいただければ嬉しいです。

<今回は最近話題の ChatGPT をご紹介いたします。> (編集担当：松本一義)

『最近話題の ChatGPT を使ってみました』

最近、ChatGPT という対話型の AI チャットサービスが話題となっています。

Web 上で色々な質問をするだけで自動的に回答をもらえるだけでなく、詩や短編小説を作ってもらったり、研究論文を作成できたりしてしまうことなどから注目され、最近では企業や教育機関等でも活用の動きが出ているのです。5月には最新版の「GPT-4」で5年分の日本の医師国家試験を解かせたところ、すべてで合格ラインを上回ったと報道され、さらに話題になっています。

この ChatGPT を実際に使ってみた結果と、ChatGPT の利用法についてご紹介します。

<ChatGPT って何？>

ChatGPT とは、米国の OpenAI 社による最新の AI チャットボット(自動会話プログラム)です。Web 上でユーザーが入力した質問に対して、まるで人間のように自然な対話形式で AI が答えてくれます。2022年11月に公開されてから、回答精度の高さが話題となり、リリース後わずか2か月でユーザー数1億人を突破しています。インターネット上にある膨大な情報を学習し、複雑な語彙・表現も理解できるのが特徴です。

<どんな使い方ができる？>

ChatGPT はビジネスや研究、教育などの分野で活用できるだけでなく、生活の中で役立つさまざまなヒントやアイデアを出してもらうこともできます。

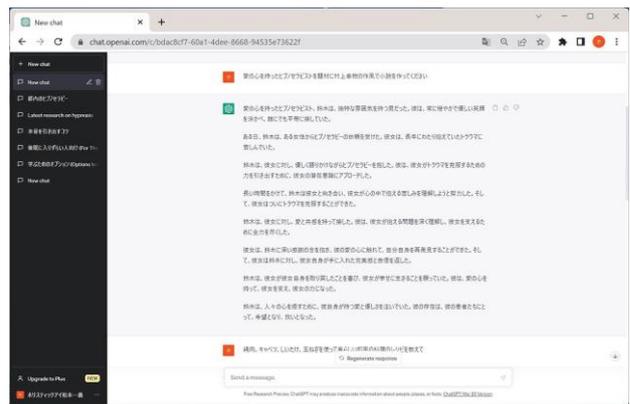
例えば、最近話題になっているおすすめの本を紹介してもらう、条件を指定して自分に合った健康法の提案、街の観光スポットを紹介してもらうなど、ちょっと知りたいことがあった時に利用するのも便利です。

実際に冷蔵庫に残っている食材(鶏肉、しいたけ、玉ねぎ)を使った春らしい和風の料理のレシピを提案してもらおうと、しょうゆベースの炒め物を提案してきました。材料や調味料と作り

方がわかりやすく紹介されているので簡単に作れそうです。



ちょっとしたテーマや条件を与えるだけで、ChatGPT で短編小説もできてしまうと Web で紹介されていたので、「愛の心を持ったヒプノセラピストを題材に村上春樹の作風で小説を作ってください」と入力して試してみました。その結果 ChatGPT が作った作品では、指定していなくても「潜在意識にアプローチした」であるとか「トラウマを克服することができた」などの正しくとらえた表現を交えて短編小説を作ってきたので驚きました。



この2つの例はいかがでしたでしょうか。

ChatGPT はまだ開発途上の部分も多く、質問によってはトンチンカンな回答が返ってきたり、不正確な情報(店舗の情報はかなり間違っていました)なども多くありますので、注意が必要です。

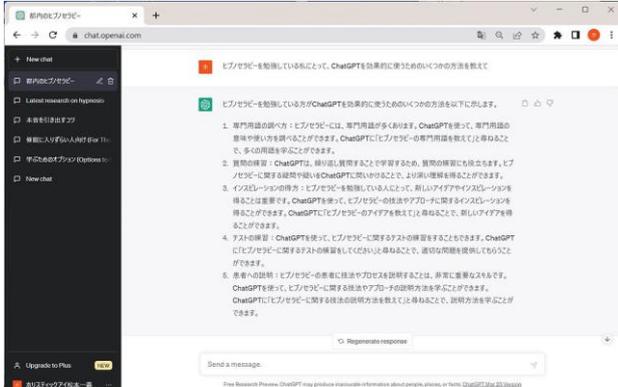
<ヒプノセラピーで ChatGPT を活用できる？>

さて、ChatGPT をヒプノセラピーの勉強やセッションに活用

【オススメ書籍・メディア】

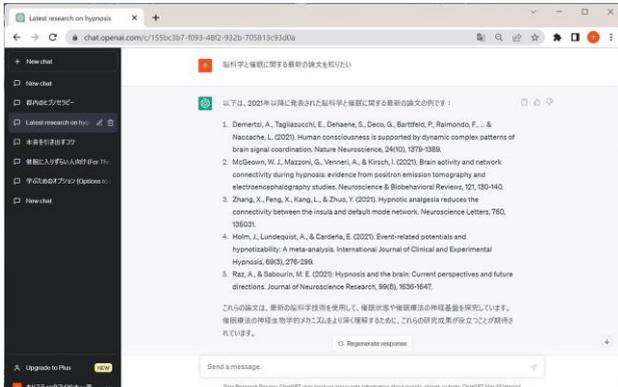
する方法を考えてみました。

まずは、ChatGPT 自体に活用法を聞いてみました。その結果、専門用語の調べ方やインスピレーションの得方、ヒプノセラピーに関するテストの練習などいくつか提案があつという間に返ってきました。

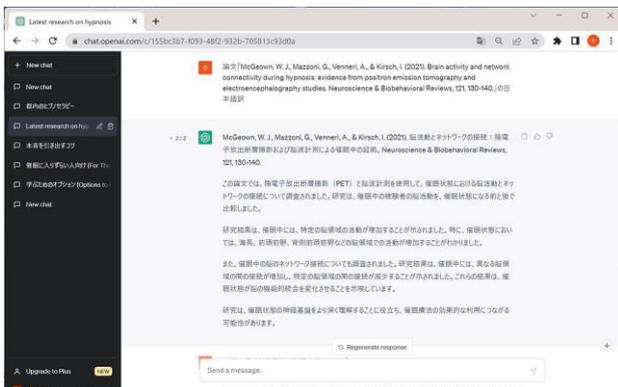


催眠に関する理論や学術的な研究結果を確認することにも役立ちそうです。

「脳科学と催眠に関する最新の論文を知りたい」と聞いたところ、2021年以降に発表された脳科学と催眠に関する最新の論文が5つ紹介されました。



全部英語だったので、1つの論文の日本語訳を依頼すると、その論文の要約のようなものが日本語で分かりやすく表示されたので、とても便利だと実感しました。



ChatGPT は情報の精度が低い場合もあるので注意は必要ですが、使い方によってはかなり便利で有益なツールになりそ

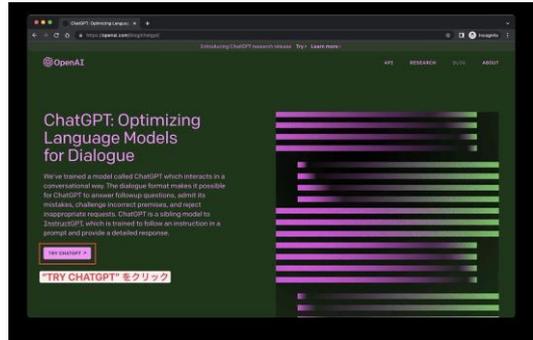
うです。日常で知りたいことや調べたいことがある時、Googleなどの検索と比べて欲しい情報が短時間かつ詳しく知ることができます。皆様も色々試してみて、上手に活用されてはいかがでしょうか。

ご参考: ChatGPT の利用方法

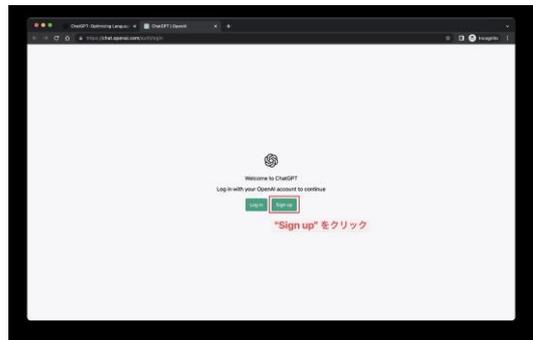
ChatGPT を利用するには、まず登録が必要です。

<https://openai.com/blog/chatgpt>

にアクセスして、“TRY CHATGPT”をクリックすると、ユーザー登録ページに移動します。

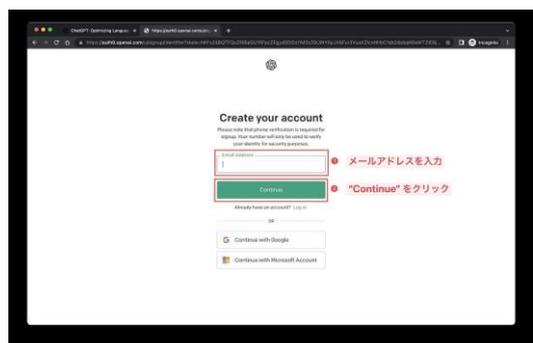


“Sign up”を選択して次のページに移動します。

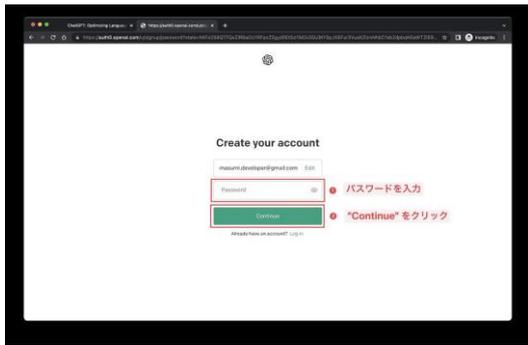


メールアドレスを入力して“Continue”をクリックし、次画面で任意のパスワードを設定します。

Google や Microsoft のアカウントを持っている場合は、そのアカウントを使ってメールアドレスの入力手続きなしでログインができます。

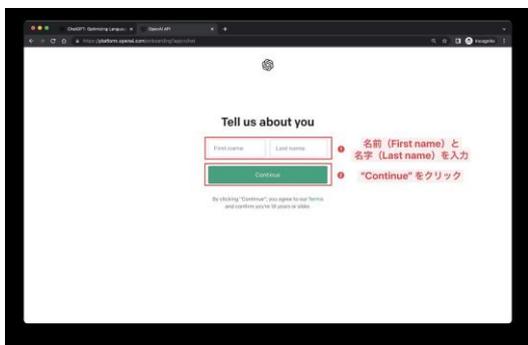


任意のパスワードを入力し、“Continue”をクリックします。



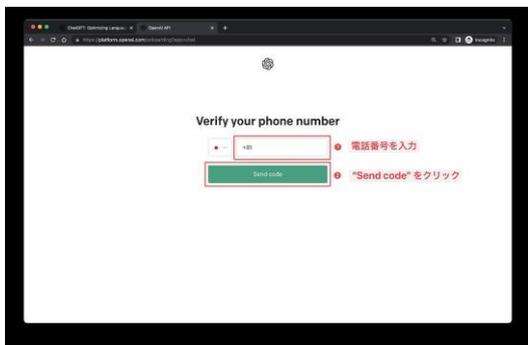
すると、入力した Email アドレス宛にメールが届きます。そのメール内の”Verify email address”をクリックして認証が通ると、氏名を入力する画面が表示されます。

氏名を入力して”Continue”をクリックします。



次に電話番号の入力画面になります。

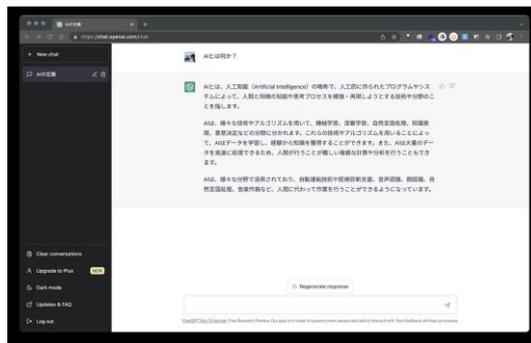
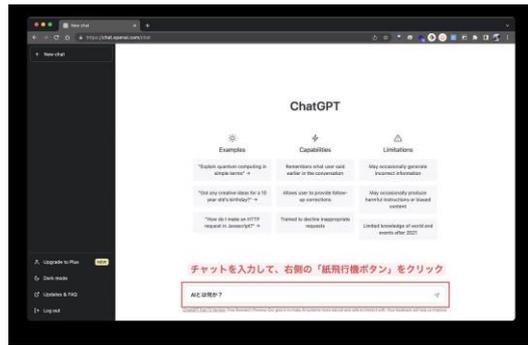
電話番号を入力し、“Send code”をクリックします。



電話に SMS などですられた認証の番号 (PIN コード) を取得し、ChatGPT 画面で入力したら、セットアップ完了です。

ChatGPT のトップページが表示されます。

画面下の枠内に質問を入力(ここでは「AI とは何か」と質問を入力)して、右側の“紙飛行機ボタン”をクリックすると回答が返ってきます。



「もっとわかりやすく教えて」と送ると、直前の会話の文脈を加味して、よりわかりやすく説明してくれます。



以上です。

【前世療法・実体験漫画】

前世療法・実体験漫画 『前世療法のその後…第2回(全3回)』

こちらのページでは、JBCH 会員ヒプノセラピストが、実際にセッションを行ったその前世療法を、連載漫画にてご紹介しています。こちらの漫画制作者は、同じく JBCH 会員で10代の時に漫画家を目指されて、現在はヒプノセラピストとして研鑽中の『らいち・ゆり』さんです。今回は第2回(全3回)になります。



前世療法のその後... 2の①

タイタニック編







次号へ続く…



一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）

※当誌のすべてのコンテンツの無断転載・無断使用はご遠慮ください。

『News Hypno』第3号 2023年6月発行

発行者：村井 啓一

編集委員：伊藤 若菜/奥田 真紀/小倉 明日香/神田 早苗/ 辻口 真紀/ 三品 あおい/綿引 千恵

編集顧問：松本 一義

発行所：一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会（JBCH）

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-7-14 五反田栗の木ビル 3F

<https://www.jbc-hypno.org/>